



あかるく元気な子 だれにも親切な子 しつかり考える子 ことばを大切にする子



## 春になれば…



二十四節気の「立春」(2/4)や、「雨水」(2/18 空から降るものが雪から雨に変わり、雪が溶け始めるころ)という言葉聞いて思い浮かぶ歌と言えば…。 「早春賦」！ ご存知でしょうか？

### 早春賦

- 1 春は名のみ 風の寒さや  
谷の鶯 歌は思えど  
時にあらずと 声も立てず  
時にあらずと 声も立てず
- 2 氷解け去り 葦は角ぐむ  
さては時ぞと 思うあやにく  
今日も昨日も 雪の空  
今日も昨日も 雪の空
- 3 春と聞かねば 知らでありしを  
聞けば急かる 胸の思いを  
いかにせよとの この頃か  
いかにせよとの この頃か

言葉が難しいので、歌詞の意味を掲載します。



- 1 春とは名ばかりで、風は冷たく、まだまだ寒く感じます。谷で冬を越した鶯が美しい声で春を告げようと思っても、まだこの風の冷たさに、春はまだ来ていない、まだその時ではないと、鳴き出そうとした声をひそめて春をじっと待っています。
- 2 川や池に張っていた氷が解け始め、そこに生えている葦も芽をふき始めています。さあ、いよいよ春が来たと思いきや、そんな思いとは裏腹に、昨日も今日もまだ空はどんよりして雪が舞っています。
- 3 もう春になったと聞かされてなければ、まだ春だとは思わなかったのに、聞いてしまったので春が待ち遠しくなってしまう、春よ早く来いと待ちこがれる思いをどう晴らしたらいいかわからないくらいです。



とは言っても、この「早春賦」という歌や、「立春」・「雨水」という季節を表す言葉を聞くと、ゆっくりとした歩みではありますが、確実に春が近づいてきているように感じます。他にも、「春一番」…「立春から春分の間に、その年に初めて吹く南寄り（東南東から西南西）の強い風。」



「三寒四温」…「冬季に寒い日が3日ほど続くと、そのあと4日ほど温暖な日が続き、また寒くなるというように7日周期で寒暖が繰り返される現象。本来は冬の気候の特徴として使われたが、最近では春先に使われることが多い。」

という言葉があります。日本人は、昔から春が来るのを待ち遠しく思っていたようです。冬の寒さに耐えてきたからこそ、暖かな春の訪れに喜びを感じるのかもしれないね。

ただ、春と言えは「卒業」そしてそれぞれの学年の「修了」の季節でもあります。あと1か月、今の学年に忘れ物をしないように気をつけて、夢や希望に満ちた春を迎えたいものです。

